


分野	62	都市経営	通番 147
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市長と語る対話のわ事業		会計	款	項	目	8,882	広報発信課
			一般	2	1	2		
事業の概要								
市民や団体と市長の直接対話を通して、市の現状や課題、ニーズを把握し、広く行政施策に反映させながら、市民と共に考え、まちづくりを進めます。								

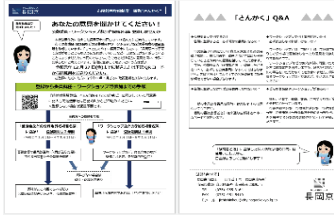
令和元年度の取組							
D (取組)	指標	市長と語る対話のわの開催回数				単位	回
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上
		実績	20回	19回	19回	18回	
・市長と語る「対話のわ」を年18回開催しました。 ・令和元年特別版として、中学校区ごと及び全市民を対象に対話のわを行いました。また、「8万人と語る対話のわ」としてFMおとくにに市長が出演、その場で寄せられる質問に即答する新たな方法で、広く市民との対話を行いました。 ・団体や一般公募での「対話のわ」も行い、開催について、広報紙、市ホームページ、公式フェイスブック、ツイッター等、様々な媒体での広報を行いました。					 対話のわの様子		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「これからの長岡京市について」を主題とし、様々な分野の施策について対話を行いました。意見交換の時間を確保し、多くの参加者からまちづくりに対する意見や市政における課題など、市民や団体の思いを聴くことができました。 ・特に、現総合計画の進捗状況や課題などの共有を行ったことにより、多くの参加者から第2期基本計画策定に向けた率直な意見も出され、市政における具体的な課題等を把握することができました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、市民と共に考え、協働しながらまちづくりを進めるため、幅広い年齢層に対して対話を行う機会の確保に加え、参加者から意見を出しやすい場の設定を工夫する必要があります。 ・情報の取得方法やコミュニケーション手法が多様化する中で、一般公募による参加者の募り方や開催方法などに柔軟な工夫が必要です。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当 ・的確に市民ニーズを把握し、広く行政施策に反映させることができるよう、従来から行っている対面での実施のみでなく、オンラインでの実施も含め、新たな開催手法や周知方法等を取り入れ、幅広い市民との対話の機会確保を行います。 ・「対話のわ」で出された意見について、市政に反映されていることを積極的に市民にPRし、さらなる対話のわへの参加を促します。

分野	62	都市経営	通番 148
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市民公募委員推進事業		会計	款	項	目	38,568	自治振興室
			一般	2	1	19		
事業の概要								
無作為抽出方式による「市民参画登録制度」を活用し、計画策定等により幅広い市民の参画を推進します。 あわせて、各種団体推薦枠を見直すことにより、団体役員の負担軽減を図ります。								


令和元年度の取組								
D (取組)	指標	市民公募委員の参画がある審議会等の比率					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
		目標	95.0	100	100	100	100	100
	89.7(平成26年度)	実績	87.1	87.9	88.9	93.1		
<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙や市ホームページで、公募委員の募集を市民に周知しました。 ・あらゆる分野で市民が意思決定に参画できるしくみをつくり、市民の意見をまちづくりに反映するため、審議会等の設置・委員改選時に市民公募委員を入れているかを確認する「審議会シート」を各課から提出してもらい、公募委員の参画を推進しました。 ・「市民参画登録制度(通称:さんかく)」の名簿更新を行いました。庁内インフォメーションで周知し活用促進することで、審議会等における市民参画・ワークショップへの市民参加を推進しました。 					市民参画登録制度案内チラシ 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応員
		—	—	
達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度末現在、行政委員会と休会中及び審議内容に専門的な知識を必要とする審議会等を除く29の審議会等のうち、27で公募委員が採用され、採用率は93.1%でした。残り2つについて、令和元年度には改選がなかったため市民公募委員の採用がありませんでした。 ・令和元年度2月に市民参画登録制度名簿更新を行い、公募委員候補者名簿に22人、ワークショップなどの参加候補者名簿に42人登録いただいています。 ・名簿を利用し、令和元年度中に4人が委員に就任しました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・公募委員をいまだ採用していない審議会等があります。 ・公募委員の採用にあたり、一般公募だけではなく登録名簿を活用できることが周知されていません。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・公募委員の採用がなかった審議会等の所管課に対し、改選のタイミングで公募委員の採用を促します。 ・市民参画登録制度を庁内インフォメーション等を活用し庁内に周知します。

分野	62	都市経営	通番 149
施策	623	パートナーシップ	
5年後の目標		対話を通じて、多様な主体が自立的にまちづくりに参画している。広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	コミュニティFM事業の推進		会計	款	項	目	—	広報発信課
			一般	2	1	2		
事業の概要								
<p>市政情報や市民活動情報など、誰もが発信者として参加できるプラットフォームの整備を目的に、その情報発信基盤となりうるコミュニティFMの開局を支援します。また、情報発信メディアとしての効果的な活用を推進し、市内外に向けた市の魅力発信を行います。</p> <p>あわせて、災害時における防災協定の締結など、市民の安心・安全を守るために連携強化を図ります。</p>								

令和元年度の取組								
D (取組)	指標	コミュニティFM開局支援				単位	—	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	平成30年度 新規事業	目標	/				/	
		実績	/				/	
	指標	市政情報発信枠での市民及び団体等の参画数				単位	件	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	平成30年度 新規事業	目標	/				/	
		実績	/				/	
	<p>・FMおとくへの番組「さわやかおとくに」内で毎週金曜日に放送している、長岡京市の情報発信番組「かしこ暮らしっくアワー」では、誰もが発信者として参加できる情報プラットフォームとして機能するよう、市民及び市民団体の参画を積極的に図りました。</p> <p>・災害発生時にFMおとくと連携し「災害時緊急放送」を実施しました。</p> <p>・ラジオメディアの双方向性を活かし、SNSで市民からリアルタイムに質問を募集し、FM放送を使って回答した「8万人と語る 対話のわ」を実施しました。</p>					 <p style="text-align: center;">ラジオの収録の様子</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・市の番組である「かしこ暮らしっくアワー」を50回放送し、市政情報を親しみやすく発信しました。市民をゲストとして32回の放送を行い、参加した延べ人数は57人に上りました。誰もが発信者として参加できるプラットフォームとして有効に機能しました。</p> <p>・FMおとくと連携して、実際の災害時緊急放送やシェイクアウト訓練などを実施し、市民の防災意識とFMおとくへの認知度向上につながりました。</p>
課題等	<p>・FMおとくに対しての市民の認知度はまだまだ低い状況です。災害時にコミュニティFMを最大限活用するためには、平時からコミュニティFMを聞いてもらうことが必要となります。</p> <p>・災害時には、既存の情報発信チャンネルに加え、新たにFM波を使った避難情報発信が加わることから、新たな体制整備が必要です。</p>			
目標達成に向けての次年度以降の対応				
A (行動)	方向性	対応策等		
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・市の番組である「かしこ暮らしっくアワー」で市民及び市民団体の積極的な参画を図り、FMおとくに関係する人口を増加させます。</p> <p>・FMおとくへの認知度を向上させるために、市のイベント等で法人と連携した企画を実施します。</p> <p>・FM波も併用した災害時の情報発信を実施していくために、災害時の体制を見直します。</p>		